

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「ふるさと子どもカレッジ事業」(宮城県石巻市)

取組の概要や経緯

地域の企業等の協力のもと、石巻の自然・文化・歴史を活かした体験活動を取り入れた講座を開設することにより、子どもたちの豊かな心を育み、自らの故郷について知り、学ぶ機会を創出する事業。

ポイント

- ✓ 地域の学習力を生かした体験活動 (地域産業の担い手などを講師とする)
- ✓ 通学区以外の同年代の仲間との交流 (参加者は市内学校に通う小学5・6年生)
- ✓ カレッジでしか行けない場所へ行ける (参加者規模・移動手段などの要因)

成果

- 包括連携協定を活用し、民間企業の知識や人脈を生かした事業に取り組んだりすることにより、多種多様な体験を提供できた。
- 地元企業の「お仕事見学・体験」をとおして、自分たちの住む地域にどんな企業(や人)がある(いる)のか知ることができる。また、地域の魅力を再発見し、将来の夢や地元就職を考えるきっかけづくりとなった。

今後の方向性

- 地元大学やNPO団体等と連携し、より多種多様な体験を提供していく。
- 事業認知度向上のため、市内の4・5年生全児童へアンケートを行う。また、市報や学校へのおたよりなどにより、活動内容を周知していく。これにより、さらに多くの子どもたちに体験の機会を提供していく。

内容

企画名	地区
①開講式/ILと交流・レクリエーション・ゲーム	河南
②石巻専修大学の施設見学と体験活動	石巻
③月浜沢川の生き物観察と体験	北上
④宮城県水産高等学校実習施設見学と体験	石巻
⑤松島自然の家にて防災学習	東松島
⑥恐竜図鑑の講話と石巻化石スポット見学	石巻



「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「できるひとが できるときに できることを」「子どもも大人も共に学び、育ち合う」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

- ・令和2年7月に地域学校協働本部を立ち上げ、協働本部を中心に支援ボランティア・支援ボランティア団体と学校との連携を深め、スムーズな教育支援が実施できるよう努めている。
- ・ボランティアの高齢化や減少、教職員の働き方改革を踏まえ、児童生徒にとってより良い教育活動が推進されるよう各種事業の改善に取り組んでんでいる。



内容

- ・登下校の安全指導、「蔵王登山・スキー」等の自然体験活動、「団七踊り」「神明神楽」等の伝統文化継承活動、米作り等の農業体験活動、中学生職場体験活動、キャリア教育事業、読み聞かせ活動、ベルマーク整理活動、防災教育活動等、多岐にわたって地域ボランティアの支援活動が行われている。
- ・蔵王登山研修会、地域学校協働活動研修会や情報交換会を開催している。
- ・ボランティアだより「清流」を毎月発行配布し、メール配信も行っている。



ポイント

- ・市内小中学校・幼稚園に地域連携担当教員を配置し、支援ボランティアと学校との関係性を深めることや、ボランティア活動に対する市民の理解と絆を深めるための情報の発信と収集に重点を置いている。
- ・各学校からの支援要請にスムーズ応えられる体制づくりに努めている。
- ・ボランティア活動の現場の声を吸い上げ、課題の改善に努めている。



成果

- ・自然体験、農業体験、伝統文化継承体験など、教室や家庭では体験できない体験活動の支援を行うことで、児童生徒が地域を学び、理解し、誇りや愛着をもつことができています。
- ・体験活動中の安全確保、教職員の負担軽減に寄与している。
- ・地域が学校に、学校が地域に目を向ける大切な機会となっている。

今後の方向性

- ・第六次白石市総合計画で掲げる「シビックプライド～まちへの誇りと愛着～」の具現化に継続的に取り組む。
- ・学校教育の現状を踏まえ、地域住民と情報共有を図りながら、地域の教育資源の有効活用に取り組む。
- ・学校と地域公民館や諸団体、事業所との連携の強化を図る。
- ・児童生徒が主体性をもって取り組む活動の場を広げていく。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「子どもたちが共に学び合う地域活動」(宮城県白石市)

取組の概要や経緯

学校の授業では体験出来ない自然の家を活用した体験学習、学校や学年を超えた幅広い交流、収穫から調理までを一貫した食育体験などを通じて青少年の健全育成を図るとともに、子どもたちの自主性や創造性、集団における協調性を養うことを目的としている。



内容

小学校5・6年生を対象とした事業「わんぱく教室」を実施している。例年、キャンプでの宿泊体験や野外炊飯、食育体験、その他体験活動を計画し、通年に渡り事業を実施。なお、白石市ジュニア・リーダー「キャロル」が指導者として小学生の指導にあたることによって、将来のジュニア・リーダーの育成、子どもの青少年健全育成を図れるような活動を展開している。

ポイント

- ①小学生が学校や学年を超えた交流を図ることのできる機会を創造した。
- ②ジュニア・リーダーは地域の子どもたちを引っ張る存在として、公民館事業や市イベントなど、地域活動に積極的に参加した。



成果

- ・地域資源を活用し、**地域への愛着、郷土愛を育む一助となり**、様々な世代との交流をすることができた。また、小学生が他校児童と交流することで中学校生活へのスムーズな移行の一助となっている。
- ・ジュニア・リーダーの人数減少、活動意欲の低下が課題として挙げられているが、**今後も活動が継続できるように自分たちができることを協議しながら**、工夫して活動を実施している。



今後の方向性

- ・より地域の自然や伝統文化に触れる機会を増やし、シビックプライドの醸成を図りつつ、将来の担い手を育成できるように、子どもたちを中心に、地域住民が地域を見つめなおす機会を提供し、事業を進めたい。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動(地域活動)の取組事例

「学校・家庭・地域の連携による教育力の向上」(宮城県多賀城市)

取組の概要や経緯

【地域活動(地域力向上事業)】

災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を通して地域教育力の向上を図る。

内容

・市内公民館等の協力を得て、防災キャンプ等を実施し、幅広い年代層(中高生や大学生を含め)の地域住民等との体験活動とおして、災害時に主体的に対応しようとする青少年の育成及び地域防災力の基盤となるコミュニティの醸成を図る。

ポイント

- ・児童を対象とした防災キャンプを実施し、災害時における対応や非常食による調理実習や宿泊等の幅広い体験活動を行う。
- ・高校生や中学生がグループのまとめ役として児童と一緒に体験活動を行い、地域の次代を担う人材育成へとつなげる。
- ・地域活動の拠点である公民館で実施するとともに、地元企業や防犯対策協議会の協力を得ることで、災害時や非常時に体験活動で得た知識やスキルを発揮できるようにする。

成果

・児童に幅広い体験活動を提供するとともに、中学生、高校生、地域住民、地元団体等幅広い立場や年齢層の方々の参画による多様な交流活動によりコミュニティの醸成を図ることができた。また、以前に参加した児童が中学生、高校生になり、支援する側で参加し、学びの循環が創出され、地域教育力の向上につながった。

今後の方向性

・防災をテーマに地域住民等の協力を得ながら事業を継続的に取り組むことが、次代を担う人材の育成へとつながっていくと考える。今後は、より多くの児童生徒が参加できるように周知方法を工夫するとともに、多様な交流活動ができるように、地元企業や団体のネットワークを広げていく。



ロープワーク体験



中学生と毛布担架づくり



中高生と段ボールベッドづくり



防災すごろく

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「地域学校協働活動(学校支援活動)」(宮城県蔵王町)

取組の概要や経緯

蔵王町の地域学校協働活動では「学校を核とした地域づくり」を目指すため、地域・家庭・学校が連携しながら事業を展開している。2人の地域コーディネーターを中心に、8つの小中学校それぞれの実情に合わせてうえで、蔵王町らしい体験活動や社会性を考慮した学びを支援している。

内容

(1) 学習支援活動

町内の小中学校における学習支援(指導・補助)を行う。毛筆指導、蔵王町の歴史講話、地層の学習、田植え・稲刈りの学習など。

(2) 校外活動支援

町内の小中学校における校外学習の支援(指導・補助)を行う。蔵王登山、スキー教室など。

(3) キャリア教育

中学生が社会人との関わりを持つことで、将来の自分を深く考えるきっかけを作る。職場体験学習、マナー講座、キャリアセミナーなど。

ポイント

コーディネーターが町内8小中学校からの依頼を取りまとめ、地域住民のボランティアとのマッチング、連絡・調整を行うことで学校側の負担軽減を図り、「学校における働き方改革」に寄与した。地域の資源や人材を活用した体験式授業の支援により、地域と学校の繋がりを促進した。

成果

- ・コーディネーターによる連絡・調整でスムーズな学習継続が行われているため、学校側の満足度が高い。
- ・ボランティアが自分の知識や特技を活かせることで、活動に生きがいを感じている。
- ・ボランティアとの交流や地域資源の活用により、子どもたちの郷土愛を高める。

今後の方向性

- ・コミュニティスクールとの連携を取りながら有意義な活動を発展させていく。
- ・幅広い活動を展開し、活動するボランティアの固定化を解消していく。
- ・ボランティア向けの研修や学校とボランティアの交流の場を設け、地域において子どもたちを支えていく意識の向上を図る。



蔵王町の歴史講話



蔵王登山



キャリアセミナー

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域学校協働活動の取組事例

「柴田町協働教育推進事業 学校支援活動の取組事例」(宮城県柴田町)

取組の概要や経緯

学校の教育活動を地域が支援する体制を整備し、煩雑化した学校の業務を軽減し、教師の教育活動の時間確保と充実を図るとともに開かれた学校づくりを推進する。また、地域住民や企業の社会貢献を実現し、学習機会の提供や生きがい・やりがい作りの場を作り、地域の教育力の向上を目指す。

内容

- (1) 学校の要請に応じて「しばたっ子応援団」(学校支援ボランティア)の派遣
- (2) キャリア教育支援
- (3) 柴田町協働教育推進委員会(地域学校協働本部)の開催
- (4) しばたっ子応援団研修会の開催

ポイント

- (1) 「学校が必要としている支援」にコーディネーターが寄り添い、先生が児童・生徒を思う気持ちを最優先
- (2) キャリアセミナーは少人数で実施して生徒と社会人講師の距離をより近く
- (3) 町内全域で組織化し、学校間・地域間で様々な情報効果ができる
- (4) ボランティア同士のネットワークを構築し、「やりがい」の共有

成果

・学校支援ボランティア活動後のアンケートより、先生が負担を感じず(99%)、先生が良いと思える(100%)活動をコーディネートできた。また、活動に関わったボランティアの98%がやりがいを感じる活動にすることができた。さらに、目の前の活動に取り組むだけでなく、活動のねらいを重視した、地域と学校が連携・協働する姿が多く見られた。

・地域連携担当の先生からの相談からボランティアが関わる学校支援活動につながるが増えてきており、学校と地域をつなぐコーディネーターの活動が浸透してきている。

キャリア
セミナー



しばたっ子
応援団の
派遣



しばたっ子
応援団
研修会



今後の方向性

町内の団体住民だけでなく、町内外の企業・事業所に積極的に声がけして授業の補助であったり、職場体験、キャリアセミナーの講師として関わっていただき、その後しばたっ子応援団に加入していただくことで、持続可能な学校支援活動を実施できるように努める。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金」(学校を核とした地域力強化プラン) (学校の働き方改革をふまえた学校支援活動)の取組事例

「キャリアセミナー」(宮城県亘理町)

取組の概要や経緯

各学校で実施する「志教育」・キャリア教育を効果的に推進し、生徒自身が自己の生き方をより深く考え、将来像への思いを強くする機会となることを目的とする。町生涯学習課が主催となり、NPO法人へ委託を行い、学習活動の一環として平成24年度から継続実施。

内容

委託先: NPO法人ハーベスト(講師依頼・講師事前打合せ・講座調整・資料作成・当日運営など)

対象: 町内全中学校(4校)。中学2年生対象(小規模校は1, 2年生)

内容: 学校規模及び要望等をふまえて、講師選定を依頼。委託先にて講師調整。

当日、生徒は各人の希望講師2人から1時間×2コマずつ受講。終了後にアンケート用紙記入。

後日、協働本部会議にて、実施内容を報告し、評価検討。



ポイント

- ①キャリア教育支援の一環として、学校・生徒の要望を踏まえ、様々な職業や立場の講師を柔軟に選定。
- ②生徒自らが希望する講師の会場へ行き、具体的な内容の講話や質疑応答をとおり、生徒の興味関心を引き出し、将来に対する意識の向上を図る。

成果

事業実施前は、自らの将来像について曖昧な生徒が大半であったが、講師の話に聞き入り、積極的に質疑応答する姿から、将来に対する意識の高まりが伺えた。

また、綿密な事前打合せを実施することで、各校をはじめ、委託先や講師など、関係者が事業の趣旨や目的への共通理解を促し、円滑かつ効果的に運営することができた。

【以下 受講生徒の感想より抜粋(原文ママ)】

- ①「将来のことを急いで考えなくても大丈夫。人と出会うことでやりたいことを見つけることができる」という言葉で自分の将来に対する不安が解消されました。まずは難しく考えずに人と出会い、やりたいことを見つけて行動しようと思いました。
- ②この講座では自分の将来について考えることができたり、新しい視点に気づけたりします。まだ、自分の夢がきまっていないような人に、ぴったりな講座だと思います。

今後の方向性

各校において、職場体験事業も、中学2年生を対象として実施していることから、キャリアセミナーとの関連を意識した事業展開も有効であると考えられる。

講師の選定にあたって、学校や生徒の要望を踏まえながらも、生徒の興味関心を広めるため、より幅広い分野から選定する。

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「町は学校」学校・家庭・地域が連携した教育活動(宮城県大和町)

取組の概要や経緯

地域学校協働活動について話し合う場として、各校に「地域学校協働本部会議」を設置している。教職員と地域の方々が活動について意見を交わし、子どもたちの成長のためともに教育に携わる体制をとっている。

内容

各地域学校協働本部で各学校の年間の活動を検討し、実際の活動の際は、主に学校・地域の両コーディネーターが詳細を調整し実施している。

また、上部組織である地域学校協働活動運営委員会では、コーディネーターとの打ち合わせの実施、広報誌の発行などを通して協働教育の普及啓発に努めている。

ポイント

- ①地域ごとに地域学校協働本部会議を開催し、活動に関わる各地区団体の長が集まり話し合うことで、年間の活動の把握と支援体制を整えている。
- ②学校毎の活動状況や活動記録写真を用いた「協働教育ニュース」を年2回作成し、町内の全戸に配布することで活動の様子を共有・周知している。

成果

- ・ボランティアが別地域の活動の支援を行うといった、地域の垣根を超えた活動に繋がりがつある。
- ・学校の困りごとを傾聴し、行政が調整に介入することで円滑に職場体験を実施することができた。

今後の方向性

- ・電子媒体を活用することでコーディネーター間の情報共有を強化し、地域間での連携促進を図る。
- ・ボランティアの実態把握に努め、課題やニーズを整理し必要な対応を検討する。
- ・各活動が円滑に行われるよう、行政の役割を再検討する。



神楽伝承



農業体験



島田飴づくり体験

「学校・家庭・地域連携協力推進事業」(学校を核とした地域力強化プラン)

地域と学校の連携・協働体制構築事業の取組事例

「色麻町地域学校協働活動推進事業【学校支援事業】【地域活動】」(宮城県色麻町)

取組の概要や経緯

平成17年度から継続している【学校支援】【地域活動支援】【家庭教育支援】の活動を、平成23年度より「協働教育プラットフォーム事業」として実施してきた。

平成29年度より、「地域学校協働活動」として、学校や地域、関係者の連携・協働を強化し、一体的な活動を推進できる体制づくりを目指した。

内容

【学校支援】【地域活動】【家庭教育支援】の各活動分野のコーディネーターと「地域学校協働本部」の企画・調整のもと、各種事業を実施した。

【学校支援】: 米づくり・エゴマ栽培・野菜栽培指導、部活動指導、校外学習随行 など

【地域活動】: サマーキャンプ(野外活動)、こどものまち2025(体験活動)、校外学習2025(町建設業組合との共催で「たこづくり教室」を実施)



ポイント

- ・各分野のコーディネーターを中心に密に連絡・調整を行い、事業の企画運営を行った。
- ・学校と密に連絡を取り、意思の疎通を図った上で学校支援を行った。
- ・町の他地域団体と連携し、事業を進めている。

成果

- ・町内で活動している団体との共催で「たこづくり教室」を実施し、地域連携の結びつきをさらに深めることができた。
- ・少子化で子供の数が減少している状況下でも、地域の歴史や文化を継承していく機会を提供することができた。

今後の方向性

- ・子供たちが参加しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、事業の見直しを図り、より活発に参加できる環境を整えていく。
- ・学校支援等におけるボランティアに参加していただく方々の研修を行い、より事業内容を詳しく知っていただく機会を提供していく。